

事務事業調書 平成23年度	No 198	課名	社会福祉課	起案者	岡田有峰
事業種別	施設管理	係名	高齢福祉係	決裁者	清水信行
事務事業名	シルバー人材センター支援事業	区分	継続	業務一覧No	30
				他係名	
				他係業務一覧No	

1 事務事業の位置付けと起案事由(事業の必要性)

総合計画体系	2 健康で安心して暮らせる環境づくり	予算科目(会計)	一般会計
	2 社会福祉	予算科目(款・項・目)	15-5-20
	1 高齢者福祉	総合計画以外の計画	第5次安城市高齢者保健福祉計画
	1 いきいきと暮らせる環境づくり	関連する総合計画の施策	
	2 就業機会の提供支援	法定受託事務	無
性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの(選択的事業)		
根拠法令	有 安城市高齢者就業機会確保事業補助金交付要綱		
実施方法	全部委託 委託先 (シルバー人材センター)		
実施期間	開始 昭和56年度	経過 30年目	終了 期間
公約・議会答弁	無		
陳情・市民要望	無		

2 事務事業の概要

求める成果	誰(受益者)が	シルバー人材センターが	~になる	より適正な運営をしていけるようになる。
事務事業の内容	シルバー人材センターが行う高齢者就業機会確保事業に要する経費に対して補助金を交付する。			
事務事業進捗状況	・高齢者の増加に伴い定年後も仕事を求める高齢者が増えている。平成22年度会員数は858人であった。高齢福祉サービス関係でシルバー人材センターに委託している事業は、家具の転倒防止器具取付事業、火災警報機取付事業等就業の機会提供にも寄与している。			
改善・対策の履歴	会員加入の増加、就業機会の開拓に努める。			
環境配慮の視点	環境目標○—基本的施策○—具体的施策○			

3 事務事業の事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	
総事業費 f=a+d+e	25,870	25,759	27,170	26,993	25,990	25,860	27,828	
財源計 a	25,117	25,006	26,417	26,240	25,237	25,107	26,322	
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	25,117	25,006	26,417	26,240	25,237	25,107	26,322
受益者負担金	0	0	0	0	0	0	0	
職員人件費 d	753	753	753	753	753	753	1,506	
内訳 従事職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.20	
人事課予算分人件費 e	0	0	0	0	0	0	0	

4 求める成果を得るための活動

				年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
活動	活動①	活動名 (活動内容)	高齢者生きがいセンター運営・管理委託	見込(単位)	0.00	1.00	1.00	1.00
				実績b(単位)	0.00	1.00	1.00	
		指標名(単位)	一式()	活動の総事業費f 実績	0	26,993	25,860	
				単位コストg=f÷b 実績	0.00	26,993.00	25,860.00	
	活動②	活動名 (活動内容)		見込(単位)				
				実績b(単位)				
		指標名(単位)		活動の総事業費f 実績				
				単位コストg=f÷b 実績				
	活動③	活動名 (活動内容)		見込(単位)				
				実績b(単位)				
		指標名(単位)		活動の総事業費f 実績				
				単位コストg=f÷b 実績				

5(1) 成果の目標と実績

		指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
成果	成果1	シルバー人材センター会員数(人)	見込(単位)	790.00	1,170.00	830.00	0.00
			実績(単位)	800.00	836.00	858.00	
			達成状況	達成	未達成	達成	
			目標成果指標値	0.00	目標達成年度		
	成果2	指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
			見込(単位)				
			実績(単位)				
			達成状況				
		目標成果指標値	目標達成年度				

5(2) 成果1、2以外の成果

成果	市民の意見、利害関係者の声などをプラス・マイナス両面からコスト、成果に分けて具体的に記入	
	高齢者の就業機会の拡大に貢献できた。	

6 単位コストと成果の分析

分析	項目	どのような内部の取り組みや外部要因が影響を与えたのか、プラス・マイナスの両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
	単位コスト	建物の老朽化に伴い、設備も含め修繕費が年々増加傾向にある。
	成果1,2	・シルバー人材センターが適正に運営できるよう支援を行なった。・シルバー人材センターへ、会員数を増やすための活動をお願いし、それに対して、シルバー人材センターは会員数を増やすためのPR活動や就業機会の拡大などを積極的に取り組まれた。

7 所属長の改善案

改善	コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案、市民にわかりやすく説明する	
	シルバー人材センターの自主性と自立性を図りながら、運営コストの効率化を進める。高齢者に就労の機会を提供することにより、生きがいを持って生活できる環境を整備する。今後、定年を迎える団塊の世代会員として受け入れていけるような受け皿の整備を検討する。	

8 方向性

方向性	必要性、効率性、有効性を踏まえ、今後どのように事業を進めるか、方向性を選択し、内容を市民に説明します
維持・継続	<ul style="list-style-type: none"> 今後もシルバー人材センターが適正に運営できるように支援していく。 今後も高齢者自立支援のため、働く機会を確保してもらう。